

# 行雲流水

No. 110 令和3年10月18日発行

## ウィズコロナ時代の研修旅行のあり方

校長 寒河江 正人

おかえりなさい。

「**笑顔と拍手**」で締めくくった2日間の研修旅行。  
特に2日目は、**最高の秋晴れ**に恵まれ、気持ちの良い活動が展開できましたね。  
「**楽しいひととき**」「**思い出のひとこま**」ができたでしょうか。  
「**様々なハフニング**」それもまた、いい思い出です。

出発式では、実行委員長の江川<sup>えがわたまき</sup>珠さんから「**コロナの中で行けるか不安になった思い**」と  
そんなコロナの中でも「**何とか行けるように準備してくれた先生たちへの感謝の気持ち**」  
が語られました。

3年生の生徒諸君には、「**様々な制限**」の中の実施となり、心苦しいところでした。  
でも、実行委員長の言葉を聞いて、「**中止にせず、やって良かったなあ。**」と感じました。  
事前の準備と当日の指導に当たられた3学年の教職員の皆様、ありがとう。  
そして、このたびの実施にご理解とご協力をいただいた保護者の皆様に感謝申し上げます。

この半年、新型コロナの「**第4波**」「**第5波**」に大きく揺れ、研修先や実施期日を根本から  
見直すしかありませんでした。

全国各地で「**非常事態宣言**」や「**まん延防止措置**」が発令され、本県も「**全域レベル4**」  
となり、身動きがとれない状況が続きました。

教育活動は「**生徒の健康**」と「**生命の安心安全**」を最優先に判断せねばなりません。  
ですから、市教委と相談・調整し、「**県内・貸切・換気・密を回避**」と致しました。

このたびの研修旅行を担当した旅行会社の副支店長さんとこんな話になりました。

「**長い間、研修旅行（修学旅行）は、こういうのでなければならぬという既成の概念が  
あったけれど、コロナで根底から覆った。**」「**いつ、どこに行けるのか、判然としない状況  
では、最小限の準備で、生徒に思い出づくりの機会を保障すると割り切る。これしかない。**」

「**ウィズコロナ時代の研修旅行**」は、「**既成概念にとらわれない工夫と知恵**」「**身近な所で  
新たな学びを創造する工夫と知恵**」が試されているのかもしれない。